

市史だより

がちまやあ Gači-majaa

第23号・2011年5月31日(火)発行

年3回 (5・9・1月発行)



編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係

〒901-2203

沖縄県宜野湾市野嵩1-1-2

問い合わせ・情報提供先



(098) 893-4430

Fax (098) 893-4434

E-Mail: Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

※宜野湾市役所のホームページで、バックナンバーも公開中!!!

HP: <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

野嵩をめぐる

宜野湾市野嵩は本市の北東端に位置し、北中城村、中城村に接する閑静な住宅街です。もっとも「閑静な住宅街」というのも、普天間飛行場がなければですが…。

野嵩は1671(康熙10)年の宜野湾間切(間切=現在の市町村に相当する行政単位)の新設の際に中城間切より編入されました。その頃は「宜野湾間切野嵩村」でしたが、1908(明治41)年には宜野湾村字野嵩となりました。

戦前の野嵩はサトウキビ、サツマイモ、大豆を主力とした純農村地域で、稲作農家もありました。伝統行事では「チナヒチモーイ」や「ウチチウマチー」、「マールアシビ」をご存知の方も多いのではないのでしょうか。

野嵩は沖縄戦でほぼ戦火をまぬがれた集落としてもよく知られており、民間人収容所として戦場を生き残った多数の人々を収容するなど、宜野湾村の戦後復興の拠点としても機能しました。その当時の様相は市内、市外の多くの体験者によって語られるところであり、米軍側の資料や宜野湾村文書にもその一端が記録されています。

1964(昭和39)年には行政区の再編に伴い、旧来の字野嵩は野嵩一区、野嵩二区、野嵩三区、以上の三つの行政区から編成されることになりました。米海軍通信隊の返還後、1980(昭和55)年には宜野湾市役所庁舎が普天間から現在地に移転するなど、現在の野嵩は宜野湾市の行政の中心地としても知られています。

今後も私たち市史編集係は野嵩はもちろん、市内各地の歴史・文化の掘り起こしに日々研鑽してまいります!



▲野嵩収容所で遊ぶ子ども達 (1945年)



▲野嵩のチナヒチモーイ (2003年)



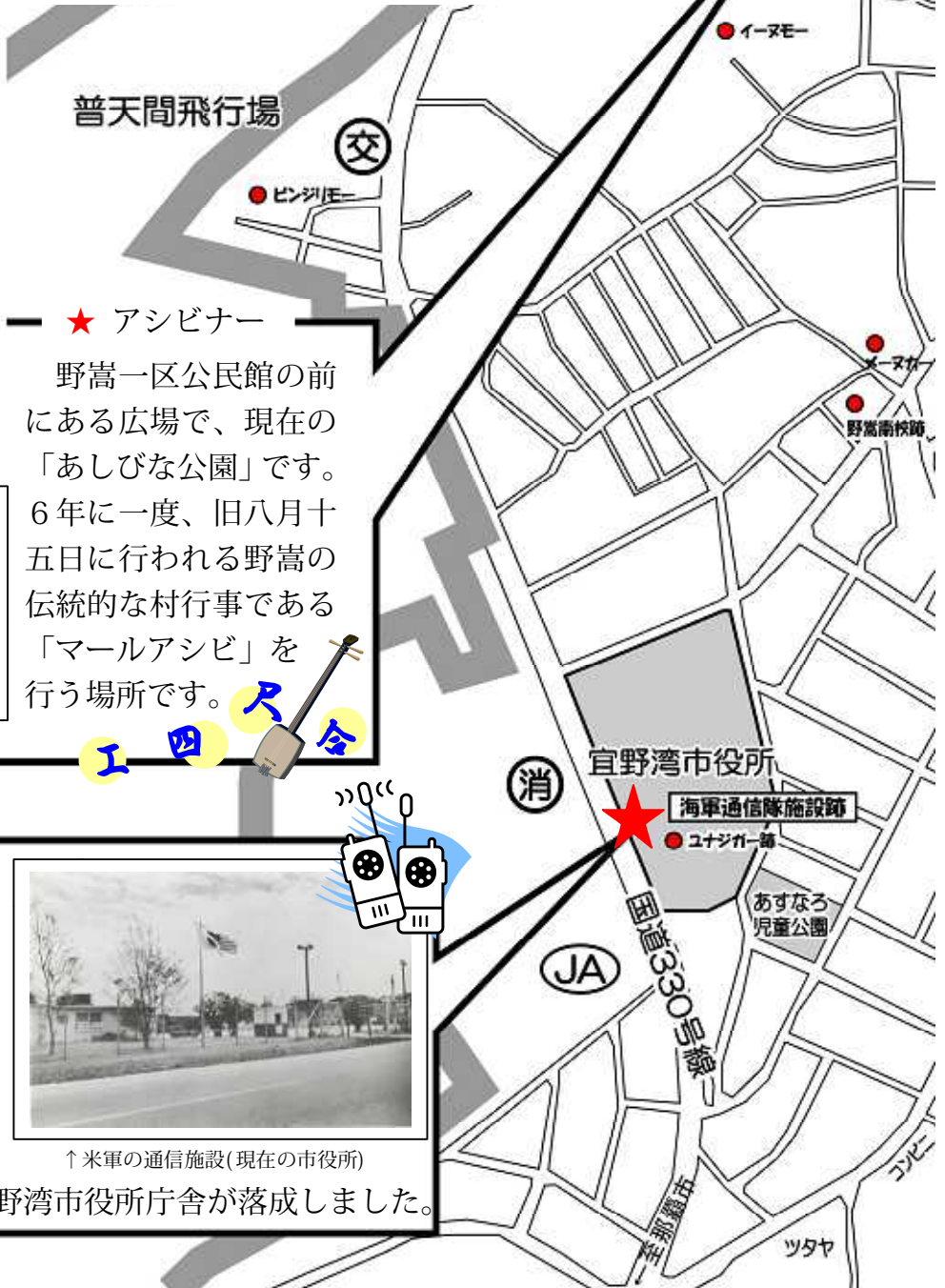
▲宜野湾市役所庁舎 (1980年)

ぎのわんムラ紀行 ～野高編～

「ぎのわんムラ紀行」は、宜野湾市内の村々(戦前の旧字)の歴史的な場所や心の拠り所である祈りの場、生業の場などを見ていこうという企画です。これらの場所に残るエピソードから、地域の特色が見えてくるかもしれません。



第一回目は、野高一区です。野高は、王府時代の公道が通り、戦前は市内でも規模が大きく豊かな農村でした。沖縄戦では収容所が設置され、市内の戦後復興が始まった場所です。現在は、戦禍をまぬがれた多くの泉や聖地が残る旧集落と、区画整理された新興住宅地、市役所などの行政機関が集まる地域です。



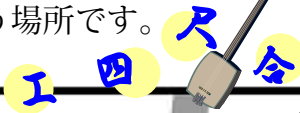
←あしびな公園



↑マールアシビ(2008年9月)

★ アシビナー

野高一区公民館の前にある広場で、現在の「あしびな公園」です。6年に一度、旧八月十五日に行われる野高の伝統的な村行事である「マールアシビ」を行う場所です。

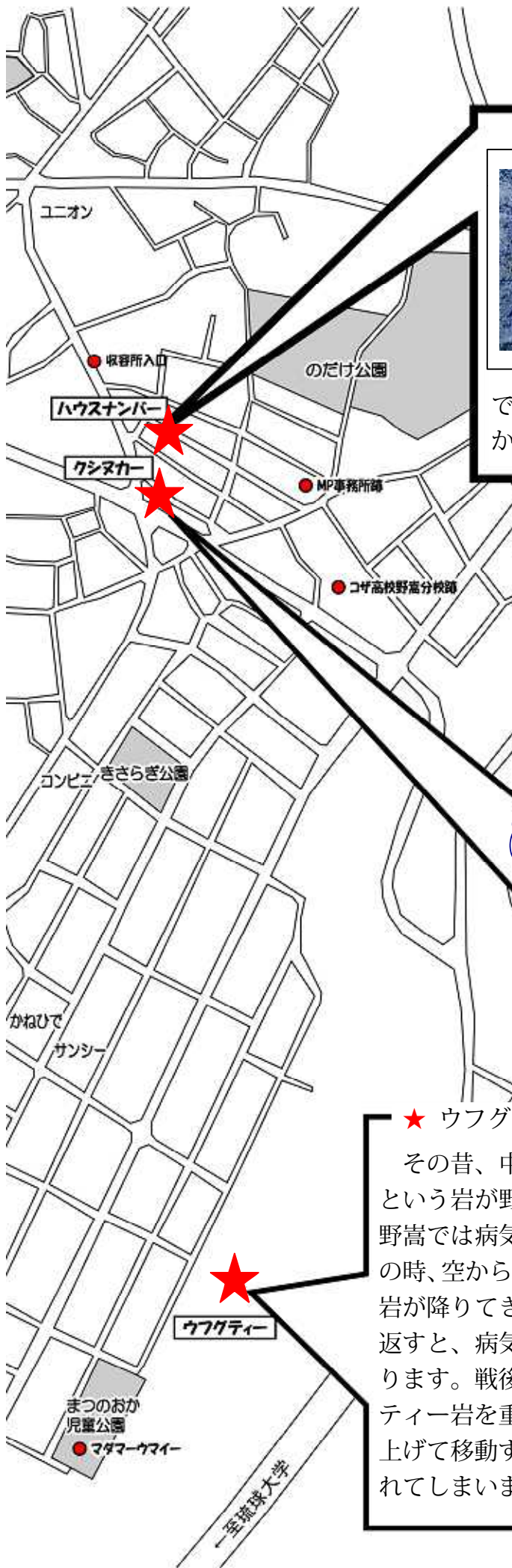


★ 海軍通信隊施設跡

現在の市役所庁舎周辺は、かつて米海軍の通信隊施設がありました。この通信隊施設は戦後、強制土地接収により建設されたものでした。復帰後は米軍と自衛隊の共同使用となり、1977(昭和52)年に全面返還、1980(昭和55)年に宜野湾市役所庁舎が落成しました。



↑米軍の通信施設(現在の市役所)



★ ハウスナンバー

↓ "32" のハウスナンバー



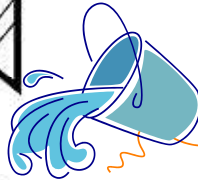
沖縄戦のさなか、米軍は民間人収容所を管理する目的で野嵩の民家やテントに「ハウスナンバー」と呼ばれる数字を打ちました。写真に写る"32"は、おそらく県内でも現存する唯一のハウスナンバー

です。野嵩では1号~178号までのハウスナンバーが資料から確認されています。

41052

★ クシヌカー

野嵩のムラガー(区の公共井戸)です。水道が普及する以前は、飲料水・生活用水に利用されていました。また、子どもが生まれたときに使う産水、元旦の朝に汲む若水をとる場でもありました。収容所時代には、他市町村の人々も利用しました。



クシヌカーは、水源であり、祈りの場であり、戦時中に多くの人々の命をつないだ重要な井戸です。



クシヌカーの湧口(左)↑と道路からみたクシヌカー(右)↑

★ ウフグティー

その昔、中城村新垣のガンワーという岩が野嵩に向かってほえ、野嵩では病気が流行りました。その時、空からウフグティー(大牡牛)岩が降りてきて、ガンワーにほえ返すと、病気が無くなったと伝わります。戦後、ウフグティー岩を重機で持ち上げて移動する際に割れてしまいました。



ウフグティー(上)↑とウフグティーの向かう中城村新垣方面(下)↓



野嵩のイリジョーガジマル

野嵩一区の「あしびな公園」の入口に、野嵩の屋号地図があります。その後ろ側に「二代目イリジョーガジマル」と書かれたガジマルの木があります。このガジマルはいったい誰が、何のために植えたのでしょうか？イリジョーガジマルとはいったい…？？ 謎が謎を呼ぶこのガジマルについて、市史編集係の古地名調査隊が調べてみました。



▲二代目イリジョーガジマル



Q 1. 名前の由来は？

「あしびな公園」横の坂道は、イリジョービラ(西門坂)と呼ばれ、戦前は普天間方面から野嵩集落への入口でした。また、周辺の土地はイリジョーバル(西門原)と呼ばれており、イリジョーガジマルとは、この土地の名前に由来しているようです。



Q 2. どんな存在？

イリジョーガジマルは、野嵩区民にとってどのような存在だったのか野嵩の古老からお話を伺うと、「イリジョーガジマルは戦前の集落の入口にあり、子どもたちはその側を歩いて普天間にあった学校に通った。それから、イリジョーガジマルの生えていた場所はマルグーフというきれいな広場で、野嵩の青年たちの憩いの場だった」そうです。また、向かいの公園はかつてアシビナー(遊び庭)と呼ばれ、現在でも野嵩の伝統行事である「マールアシビ」が行われる場所です。イリジョーガジマルは、野嵩の人々の暮らしを見守ってきた野嵩のシンボルといえるかもしれません。



▲イリジョーガジマルの周辺地図



←① 木を切る前の
拌みの様子

↓② 重機で木を倒す



←③ 木をトラック
に積んでいく

～ イリジョーガジマルの最後 ～

目印として、また遊び場として活躍したイリジョーガジマルは今では見ることはできません。1987(昭和 62)年頃から、イリジョーガジマルが枯れ始めたのです。当初、区民も心配し肥料をまくなどしてガジマルの復活を願いました。

しかし、その努力もむなしく、イリジョーガジマルは枯れてしまい、道路に倒れそうになりました。そのため、1991(平成3)年7月14日、野嵩一区の8・9・10班の区民で伐採作業を行い、イリジョーガジマルは姿を消しました。

※写真は島田政弘氏提供



Q 3. なぜ二代目？ — イリジョーガジマルの復活 —

現在のイリジョーガジマルは、大川正雄氏が区長時代の 1958(昭和 33)年9月、大川区長が二代目として植えたガジマルです。市史編集係でも、いつの日か二代目イリジョーガジマルが、野嵩区民を見守る大樹になることを楽しみにしています。



前号（市史だより がちまやあ 第 22 号）でお知らせしましたが、嘉数高台公園内の戦跡整備事業が完了しました。これは市民、各団体からの要望が多数寄せられていたもので、平成 22 年度、秘書広報課・企画政策課・施設管理課・文化課の 4 課合同で行った事業です。主な担当課は施設管理課で、文化課は説明板の内容等を担当しました。

内容は、公園内と嘉数周辺の戦跡の位置がわかる総合案内として、中央階段脇に「戦跡案内板」、激戦の傷跡を残す「弾痕の塀」、公園内にある日本軍の「トーチカ」や「陣地壕」の各説明板、そして嘉数での戦闘の様相を表した「嘉数の戦闘」の 5 つの説明板が設置されています。また、トーチカと陣地壕には階段の改修・設置も行われました。以前より格段にアクセスが良くなっていますので、ぜひ一度、訪れてみてください！



▲ 戦跡案内板と弾痕の塀



▲ トーチカ入口と説明板



▲ 陣地壕へのアプローチ



我如古サングワチャー（3月遊び）

去った 4 月 24 日、我如古区公民館において、「我如古サングワチャー」が催されました。その中で我如古婦人会によって踊られたスンサーミーは、宜野湾市の指定無形民俗文化財でもあり、伝承によると我如古グスク築城を祝って披露されたのが始まりとされています。それから毎年、子孫繁栄・豊年祈願として旧暦 8 月 17 日に行われていましたが、いつの頃からか旧暦 3 月 3 日に改められるようになりました。戦前は我如古ヒラマチャー（平松）の下で踊られていたそうです。

唄はスンサーミー、スーラキ節、今帰仁節とそれに対応する踊りで構成されています。

このサングワチャーは、他には宜野湾で 4 月 6 日に催されました。



旧暦 3 月 3 日 サングワチャーは、日本のひな祭りに相当するものです。沖縄の場合は旧 3 月 3 日に女性が日頃の雑事からまぬがれて、料理やお菓子（ヨモギ餅など）を用意して唄や踊りで一日を過ごしました。奄美から八重山にかけて伝わっています。その日は大潮と重なり、浜へ下りて行事を行ったそうです。宜野湾では伊佐が浜へ下りたということですが、ほとんどの集落では大きな家を借りて行っていたようです。これらは単なる娯楽いうだけではなく、厄払いや健康祈願等の儀礼でもある重要な祭祀です。



★当日編★

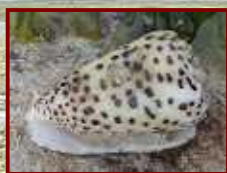
宜野湾の海、観察会！



平成 23 年 4 月の大潮の日、市内の某ビーチにて宜野湾市史が発刊している『ぎのわん自然ガイド』を参考に海の生き物観察をしました。風が強く波が揺れ、撮影がすごく困難でしたが、様々な貝や生き物を発見、確認することができました。



マガキガイ(テラジャー)



ゴマファイモガイ



コオニ
コブシガイ



ハマサンゴ属



シャコ貝



アオヒトデ

イボヒトデ



シカクナマコ



タカクキクメイシ



オヤユビミドリイシ



スベスベマンジュウガニ



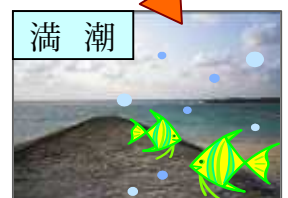
クロナマコ



この他にも種類の違う貝やウニ、たこ、魚などもいました♪

☆海は楽しいですが、とても危険なこともあります。毒を持つ生き物や、触れるとケガをする生き物もいます。例えば、ハブ貝と呼ばれる貝は種類によっては、刺されると死ぬこともあります。又、食べると中毒をおこす生き物（スベスベマンジュウガニなど）がいることも知っていて下さい。

☆潮の満ち引きに関しても十分気をつけなければなりませんので、海へ行く際は子どもだけでは行かず、海に精通している大人の人と一緒にいきましょう。



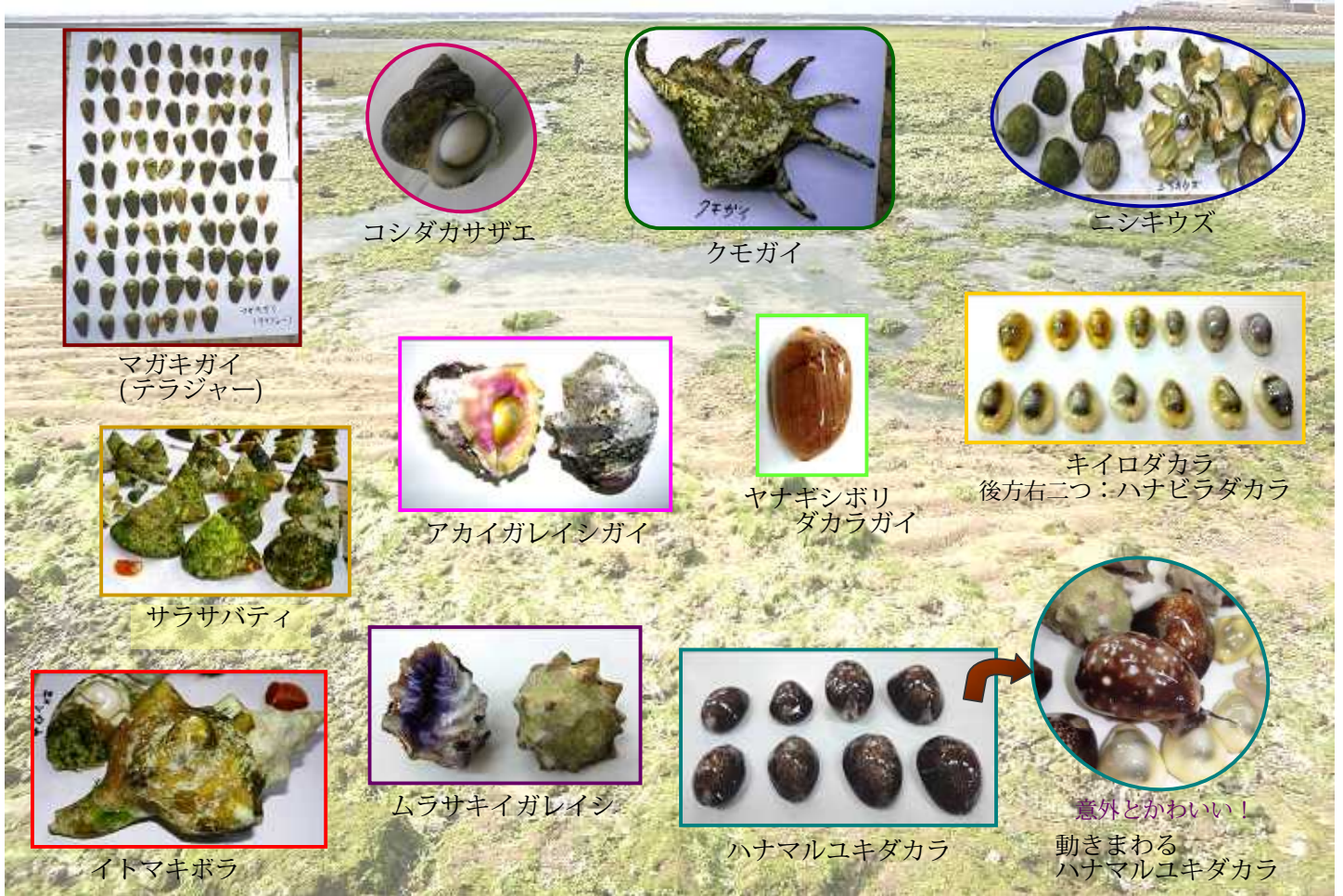
文化課・市史編集係のホームページ（1 ページにアドレスあり）にてカラー写真を見ることができます。ぜひご覧下さい♪



宜野湾の海のみぐみ



翌日、採集した貝類を分類してみました。マガキガイが特に多く、なんと87個も獲れました！他にもサザエや観光品などでよく目にするタカラガイやクモガイ、イトマキボラなどがありました。現在、深刻な環境破壊の問題などありますが、まだまだ宜野湾の海ではこのように生物の息吹を感じることが出来るようです。



海の幸いっただっきまーす！！

マタシコッソヨー♪

たこ(ポン酢風味)

貝類にはタウリンが多く含まれていますよ～☆

テラジャー(美味!!)

★おまけ★
★貝殻でアート★

夏休みが楽しみ♪

慰霊の日 企画展

沖縄戦と基地

日時：平成23年6月15日（水）～7月3日（日）

入場無料

午前9時～午後5時（入館は4時半まで）

※火曜日は休館（6/21・28）、慰霊の日（6/23）は開館

場所：宜野湾市立博物館



日米両軍が相対した激戦地の一つである宜野湾市。多くの住民の命が失われ、基地建設などにより、住んでいた環境も大きく変容することになりました。それらを写真パネルや実物資料などで紹介します。



市史編集係では、宜野湾の古地名（戦前の地名・集落・暮らしの様子など）の聴き取り調査をしています。これまでの成果を見ていただくために、昨年9月から、嘉数区、野嵩一区、真栄原区（真栄原・佐真下）、喜友名区、19区（愛知・神山）、長田区（長田・志真志）の各公民館において展示会を開催しました。これからも随時開催予定です。入場無料ですので、ぜひお越しください！

※公民館の都合により、展示期間中に休館することもあります。ご了承ください。



普天間一区公民館

- 日時調整中
- 対象地：普天間

ふてん指

中原区公民館

- 7月8日（金）～7月22日（金）まで予定
- 対象地：中原・赤道・上原

なかはら

新城区公民館

- 6月27日（月）～7月8日（金）まで予定
- 対象地：新城

あらぐさし

我如古区公民館

- 5月23日（月）～6月3日（金）まで予定
- 対象地：我如古・志真志

がねこ

宜野湾区公民館

- 6月13日（月）～6月24日（金）まで予定
- 対象地：宜野湾・志真志

ぎのわん



「慰霊の日 企画展」「ミニ古地名展」ともにお問い合わせは ☎893 - 4430（市史編集係）までどうぞ♪